

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026年5月11日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部 国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2026年4月25日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
<b>留学先大学について</b>	
留学先国	カナダ
留学先大学	ヨーク大学 (日本語名) York University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2025年8月～2026年4月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: リベラルアーツ学部 現地言語での名称: Liberal arts and professional studies  <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4月上旬～7月下旬 2 学期: 9月中旬～2月上旬	1 学期: 9月上旬～12月中旬 2 学期: 1月上旬～4月中旬 3 学期: 4 学期:
学生数	55000人
創立年	1959年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (カナダドル) (1 現地通貨 = 115 円)	B 日本円	備考
授業料	0	円	
宿舍費	11,282	円	tatham hall の single room
食費	6,000	円	meal plan+友人との外食費
図書費	50	円	教科書は中古で購入
学用品費	0	円	文具等は日本から持参
携帯・インターネット費	320	円	phone box で月 75 GB/\$ 40
現地交通費	200	円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	50	円	
旅費(留学中)	5,400	円	
被服費	100	円	
医療費	0	円	
保険費	512	75,685 円	形態: 明治 75,685 円 York 512ドル
渡航旅費		300,000 円	
ビザ申請費	235	円	
雑費	100	円	
その他	0	円	
その他	0	円	
合計 ※現地通貨 および 円	24249 (=2779376 円)	37685 円	
総計(A+B) ※円		2,817,061 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。



## 5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

まず、学生寮に住むことはお勧めしない。値段が高い割に設備が整っておらず、ほとんどの寮にキッチンもないために自炊もできない。

最初はキッチン付きの寮に住みたいと考えていたが、私が寮の申し込みフォームを申請する時にはキッチン付きの寮はすべて埋まっていた。他の交換留学生を見てもキッチン付きの寮に入れている人はいなかったのでもし寮にどうしても入りたい場合は自炊をできないことを覚悟した方がよい。自炊ができない代わりに Meal plan という制度があり、お金をチャージして大学にあるカフェテリアやスタバなどのお店でご飯を買うという制度であるが、そもそもの設定金額が高額で私は満額つかい切るのに大変苦労した。ご飯自体もレパートリーがそこまで多くないので、半年もすればご飯に飽きる。また、トイレやシャワーをフロア全体で共有するため、トイレが流し忘れていたことがあったり、便器が汚れていることもある。ほかにも、寮の壁が薄く、隣の人の声が全て聞こえるなど、さまざまな問題があった。寮には don と呼ばれる学生リーダーがいたり、housing 専用の office もあったりするが、問題があっても基本的に親身になって対応してくれない。

値段に関していうと、寮費はキャンパスの周辺のシェアハウスなどと比較しても、家賃が 1.5 倍ほど、meal plan のため自炊に比べておそらく 2 から 3 倍ほどのお金が掛かった。寮に住むと通学も楽で、友達ともすぐに会える環境は良いが、衛生面や金銭面を考えてみると、寮に住むのはもったいない選択であったと後悔している。自分の食事スタイルや通学時間など、何を大事にするかをよく考え、寮に住むのか、ホームステイをするのか、大学の前にある quad と呼ばれるアパートに住むのか、よく調べてから住む場所を決めることをお勧めする。

## 現地情報

## 1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: 地域の general clinic や専門医)

## 2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: )

## 3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

外務省のメールを登録して情報を受け取るようにしていた。また、夜遅くに一人で出歩かないようにしたり、危険な場所には近づかないようにしていた。

## 4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

問題なし

## 5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

カナダで口座を開設し、日本の口座から wise を利用してカナダの口座に送金していた。普段の生活ではカナダの銀行のデビットカードを利用していた。日本のクレジットカードはレートが悪い上に手数料が取られるので、wise 等を利用すると良いと思う。

## 6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

アジアスーパーなどは多くあるので、調達できないものは特に思い浮かばない。また、ないならないでなんとか買った。

## 7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

なし

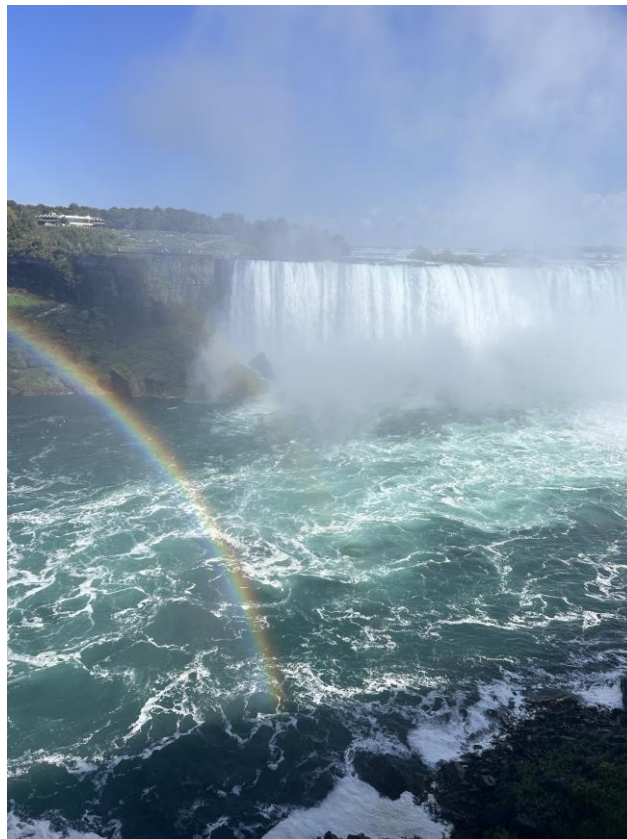
## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
15 単位		<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input checked="" type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 授業によっては学部事務室にメールをし、履修の許可をもらう必要があった。		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Introduction To Human Rights And Equity studies		人権と平等について
科目設置学部・研究科	AP/HREQ	
履修期間	fall/winter	
単位数	6 単位	
本学での単位認定状況	6 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	lecture/tutorial(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回	
担当教授	Paul Angelo Brienza	
授業内容	批判的人権や公平性研究の分野について概説する入門科目。前半では、伝統的なリベラル的人権論を中心に、人権に関する基本的な考え方を学び、自然権、道徳的権利、社会政治的権利、宗教的権利、法的権利といった諸概念について学習。後半では、公平性および社会正義に関する学際的視点を踏まえ、現代の批判的人権研究における主要な論争や議論を検討した。	
試験・課題等	レポートが 4 つ(各 20%)、出席 10%、授業中の発言等 10%	
感想を自由記入	この講義は lecture120 分と tutorial60 分の 2 つからなる講義である。tutorial では lecture で扱った内容について、自分の考えやその背景について 1 クラス 20 名程度のクラスで話し合う。私以外は全員ネイティブの現地学生であったため、発言に苦労することもあったが、講義で扱った内容について自分の考えを深めることができた。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Second Language Acquisition	第二言語習得
科目設置学部・研究科	AP/LING
履修期間	fall
単位数	3 単位
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 2 回
担当教授	Liz Smeets
授業内容	第二言語習得に関する基礎的な授業。第二言語習得の言語学的側面、生物学的側面、認知的側面、社会心理学的側面、ならびに社会教育学的側面について検討する。また、さまざまな理論的モデルについても考察する。
試験・課題等	中間試験(25%)、期末試験(30%)、レポート(2 回、それぞれ 20%、25%)
感想を自由記入	第二言語習得のプロセスや第一言語習得における心理的な発達等について学ぶ。第二言語習得の授業というだけあって、第二言語を勉強している人や英語が第二言語の人が多く、クラスメイト同士のコミュニケーションが取りやすい授業であった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Advanced Oral Communication for ESL student	ESL の学生向け コミュニケーション
科目設置学部・研究科	AP/ ESL
履修期間	winter
単位数	3
本学での単位認定状況	1.5 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	Beata Piechocinska
授業内容	ESL(英語を第二言語として学ぶ)の学生が、学業上の成功に必要な口頭コミュニケーション能力を向上させることが目的。授業では、グループおよび個人との双方向のコミュニケーション方略、ならびにフォーマル・インフォーマル双方の場面でのプレゼンテーション技能に重点を置く。さらに、相互作用に関する理論とその実践的応用を通して、多様な学術的・専門的・社会的文脈における効果的な口頭コミュニケーションについて学ぶ。
試験・課題等	プレゼンテーション(15%)、role play(15%)、debate(15%)、振り返り(15%)、multimodal learning project (4 回、各 5%)、授業参加(20%)
感想を自由記入	この授業では ESL の生徒を対象としたコミュニケーションについて学んだ。ESL の学生向けに開講されていることもあり、受講生のほとんどが留学生で自分と似たバックグラウンドの持ち主が多く、親しみやすいクラスだった。な授業内容としてはディベートやロールプレイといったグループで取り組む課題も多く、授業内でも友人を複数作ることができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Langugae and Mind	言語と心
科目設置学部・研究科	AP LING
履修期間	winter
単位数	3.00
本学での単位認定状況	3.00 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義・チュートリアル(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 3 回
担当教授	Liz Smeets
授業内容	人間の言語構造が人間の心の構造をいかに反映しているかを探究し、言語の認知的研究を学習。特に、文法研究における生成文法的アプローチに焦点を当て、その哲学や心理学をはじめとする諸分野との関連性について学ぶ。あわせて、言語学の主要概念に関する基礎的導入科目としての役割も担い、言語体系の研究に用いられる分析的手法にも注意を向けながら理解を深める。
試験 課題等	problem set (3 回、各 10%)、期末レポート(10%)、中間試験(20%)、出席(10%)、期末テスト(30%)
感想を自由記入	この講義は言語学の基本的な文構造や文法について学ぶとともに、言語習得についても学習した。120 分の講義と 60 分のチュートリアルからなる講義形式だったが、講義で扱った内容についてチュートリアルで実践問題を解くことができたので習ったことが定着しやすかった。



## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職    進学    未定    その他:

2) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。  
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)  
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。  
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。  
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	TOEFLの受験
	8月～9月	
	10月～12月	学内選考
留学開始年	1月～3月	奨学金の選考
	4月～7月	
	8月～9月	渡航
	10月～12月	テスト
留学/帰国年	1月～3月	テスト
	4月～7月	帰国
	8月～9月	
	10月～12月	



## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

まず、8 か月間の留学生活は、わたしにとってとても素晴らしい経験であった。カナダに行くまではほぼ海外に行ったことがなかった私にとって、初めての海外生活はもちろん苦勞することも多くあったが、非常に学びの多い充実した時間だった。

もともと私がカナダのヨーク大学を留学先に選んだ理由は、大きく分けて二つあった。

一つ目は、日本において「共生社会」を実現するためのヒントを、多文化主義が進むカナダで学びたいと考えたからだ。日本で生活する中で、人との違いをマイナスに捉えたり、周りと同じであることを求めたりする空気があると感じていた。そうした環境を変え、一人ひとりの個性が受け入れられる社会を作るためには、多民族国家として成長してきたカナダの歴史や社会の変化を学ぶことが大きな助けになるはずだと思い、多様性や人権に関する講義が充実しているヨーク大学で、共生社会に向けた具体的な取り組みについて勉強したいと考えた。

二つ目は、教育の視点からダイバーシティのあり方を学びたいと考えたからだ。共生社会を作るには、幼少期から多様な人と関わり、自然に違いを認め合える環境が必要だとおもい、ヨーク大学のリベラルアーツ学部で、インクルーシブ教育や組織での多様性の活かし方、LGBTQに関する問題などを学びたいと考えた。

そして、ヨーク大学がカナダで最も多様性にあふれるトロントにあることも、私にとって大きな魅力だった。世界中から留学生が集まるこの環境なら、授業で学ぶ理論だけでなく、日常生活の中でも多様なバックグラウンドを持つ人たちと交流できると考えた。

実際の留学生活は、言語の壁や初めての一人暮らしなど、大変なことも多くあったが、周りの友人に恵まれ、とても充実した8ヶ月間であった。トロントには多様性に富んだ場所であり、さまざまなバックグラウンドを持つ人が多くいる。そのため、英語が第二言語である人も多く、ネイティブではない人に対しても寛容であったことも私にとっては心地よい環境であった。

海外で暮らし、さまざまな人と関わることで英語力の向上だけでなく、自分のキャリアに対する考えかたや価値観が変わるきっかけにもなり、人間的にもとても成長できたと感じている。

また、トロントでの生活だけでなく世界のさまざまな場所に旅行にいき、さまざまな文化に触れることができたのも、とても有意義な経験であったと感じる。